

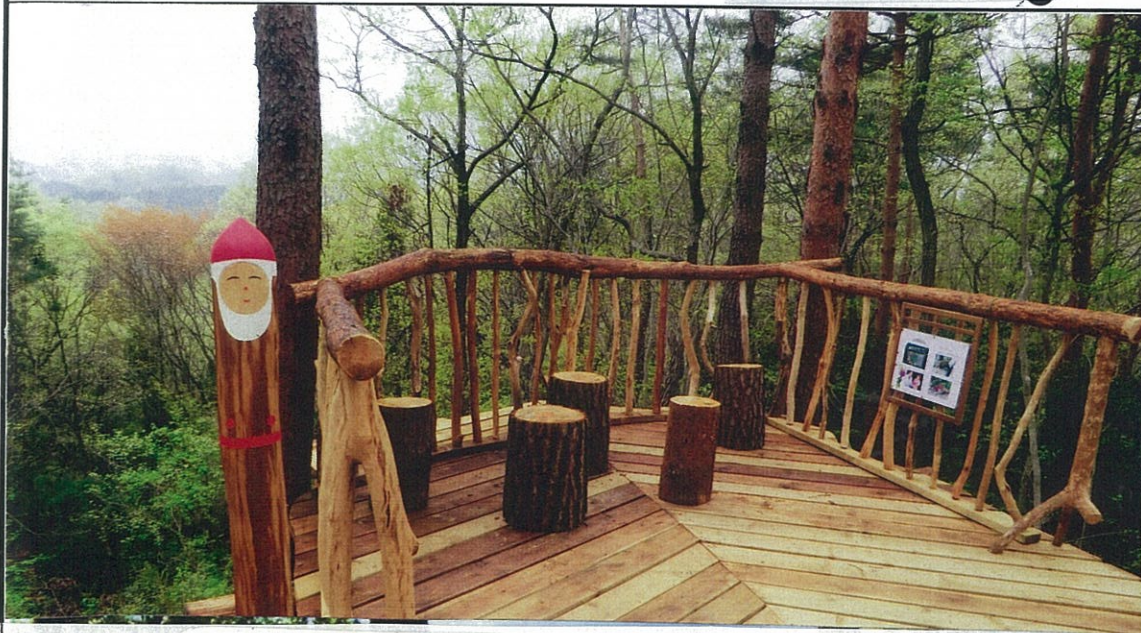


# 雑木林

12号

小川町里山クラブ You - You 編集発行

2013年4月29日



里山クラブ You-You 10周年で設置

モントの展望台



過去・現在・未来を展望する

山鳥のベンチ

篠の音は出逢い共鳴り人となり

「篠の音は

## 出会・共鳴り・人となり



2012.04.18



2012.04.18

「出会・共鳴り・人となり」の奥深い篠の音が、新緑に輝く第一展望台から4月30日午後1時から響きわたった。



2012.04.30

## 出逢い The Encounter



2012.04.30

## 篠の音取り Shino-no-netori



# 小川 東秩父 東松山 ときがた



第2展望台から小川町の過去、現在、未来を眺める。小川町角山滝ノ沢の町有林

## 町有林に第2展望台

### 里山クラブ10周年で設置

小川町の住民らでつくる森林ボランティア団体「小川町里山クラブYou-You」(佐藤章会長、メンバー約50人)は、活動10周年を記念し、同町角山滝ノ沢の町有林に作った展望台「モントの休憩所」と「山鳥のベンチ」をクラブ総会で披露した。

同クラブは、同林や同町飯田谷津田の私有地で地域住民や子どもたちを巻き込みながら里山の再生に取り組み、自然との触れ合いの場を提供している。

同クラブの展望台は二つ目。新作は、ヒノキやマツの間伐材を使い、ベンチが手作りした。天然の木のカーブを生かした装飾がユニーク。船のデッキを模

小川



「出会・共鳴り・人となり」の奥深い篠の音が、新緑に輝く第一展望台から4月30日午後1時から響きわたった。

十周年にふさわしく、篠の音は里山を潤す恵みの雨、雑木林を吹きぬける風、鳥のさえずり、チゴユリの花となり、心が浄化される音色であった。会員によるオカリナ・尺八・民謡・フォーク、一品持ちよりの料理も味わい深く、バイセンの樽はたちまち飲みほされた。

里山の「過去・現在・未来」を展望するモントの展望台と山鳥のベンチ。森づくりの夢は次の十年に向かってすでに歩み始めている

した床に上がると、笠山や官ノ倉山など周辺の山々が一望できる。ベンチは丸太状で、ゆったり座って景色を眺められる。

佐藤会長(71)は「ここからはゴルフ場開発の跡地が見えま

す。環境に配慮された豊かな里山、しかし工業誘致の場として指定されています。町の過去、現在、未来を眺望できる絶景の場所です」と説明した。

同林の第1展望台では横笛奏(タウン記者・鈴木香葉子)

## 里山観察メモ

2012. 5. 20

### 出会・共鳴り・人となり

これからのクラブ活動の合言葉に・・・どうでしょうか

### 整備計画～これからの10年をつくる～

今日の里山自然観察のテーマは、「10年の里山整備活動を体感して、これから10年の整備計画をみんなで作る。」としたい。

- 憩いの森：ヤマツツジ等の開花、豊かな林床植生、見通しの良い景観、ゆったりとした散策路、休憩・展望エリア
  - 散策路：幅1m、リラックスしながら散策できる緩やかな歩道
  - マツ林区：枯木整理、常緑樹除伐、落ち葉掻き、マツタケ山
  - コナラ林区：劣等木・高木一部伐採、林床に光が差し込む
- ひとりひとりが憩いの森づくりの企画を思い描きながら・・・

### ひとりひとりの「共鳴り」づくりを

里山に入った時のリラックスした自分を発見する。  
里山でなにを感じ、発見し、考え、感動し・・・すべての生き物にそそぐまなざしを大切にしたい。

### 放射線量参考データ

- 福島データ：・林床放射能A0層に98.6%、(Bq) ・赤松セシウム分布：樹皮42.1%、枝29.6%、葉18.8%、幹5.7%
- 里山のデータ：前山 入口0.14、中0.15、山頂0.14、谷津池0.15 (μSv) 中山 1展望台0.15、山頂0.16 水田 水田水口0.15、ベンチ0.18、ソデ水路0.08
- 里山に月4回・1日4時間滞在した場合の年間外部被曝線量は 0.15\*12\*4\*4÷1000=年0.0288mSv

今日の作業

前山のアカマツ林区の整備

2012・6・17

整備目標 風通しのよい健全なアカマツ林づくり

- 作業内容
- ①アカマツ立枯木の片づけ (すべて域外に搬出)  
(マツノマダラカミキリ・マツノサイセンチュウの住みか)
  - ②アカマツの根元に日光が当たるように
    - ・ヒサカキの全伐
    - ・ウルシ・アセビ等低木の除伐
    - ・落葉亜高木 (コバノトネリコ・ネジキ・リョウブ等) 除伐
    - ・ナツハゼ・ヤマツツジ・ガマスミは出来るだけ残す
  - ③落葉を表土が見えるまで取り除く
  - ④コナラ等アカマツの頭にかかる木は伐採

作業エリア 前山西尾根・南面・・・最終的な整備区域は逐次検討

作業方法: 2～3人単位でアカマツ1本ごとに、1時間を目標に

安全管理: 他作業班との安全確認、ハチの巣、けがに注意して

アカマツ メモ

- ・裸子植物、マツ科マツ属 (5種)、アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ (3)
- ・カラマツ属、トウヒ属 (エゾマツ)、モミ属
- ・陽樹、パイオニアプランツ、雌雄同株、花期5月・翌年結実 (マツカサ) 風散布
- ・共生菌: 菌根菌 (40種) = マツタケ菌
- ・マツ枯れは複合的な要因、直接的には、人離れ→落葉堆積→雑菌繁殖→共生菌弱体  
→マツ弱体化→マツノマダラカミキリ (寄生マツノサイセンチュウ侵入)  
仮導管内で繁殖し水を止めてしまうために枯れる

マツタケ菌 メモ

- ・好む土壌: 花崗岩・砂岩など水はけのよい貧栄養土
- ・アカマツ 15年生以上、30～40年生最盛期、50年生以降下降、80年生減少
- ・アカマツの元気な根 (細根) と共生し炭水化物を受けリン等を取り易くしている
- ・共生して4～5年で「シロ」をつくりマツタケが発生し始める
- ・他の菌やカビに弱く、落葉層の雑菌と細根の浮上で「シロ」が落城してしまう

マツの文化 日本の原風景、多様な利活用、精神文化

- ・家紋・苗字・玩具・遊び・門松・松竹梅・御柱・・・
- ・姿: 風景・松並木・庭園・盆栽・絵・版画・・・
- ・材: 城石垣基礎・橋・水防工事材・鉄道枕木・用水木樋・家材・薪 (製塩・陶器)
- ・炭: 製鉄・鍛冶屋・・・ 松明・灯火・墨・松根油・テレピン油・・・



## くりたけ



## 活動フィールドのトンボたち

百武 充

私がみどりが丘に住むようになったのは平成2年4月ですから、もう20年以上が過ぎたこととなります。

里山クラブの設立からでも、もう11年。あっという間に時間が過ぎていきました。その間に、団地の生活だけでは決して味わえない、いろいろな方との出会いがあり、また、多くの楽しい経験をさせていただきました。活動の内容は今までの会報にも書かれ、この号にもほかの方々がお書きでしょうから、ここでは少し趣味的なことを書きます。トンボの話です。

### アカトンボの減少

里山のトンボと言えば、まずアカトンボが思い出されます。町有林付近でも、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボなど、数種類の赤トンボが以前はごく普通に見られました。しかし、10年ほど前から、見られるアカトンボの個体数がなぜか大幅に減少してしまいました。



アカアカネ(オス)

減少の原因については、水田の乾田化とか、ネオニコチノイド系農薬の使用などが原因ではないかと言われてはいますが、まだはっきりこれ、と言うところまではわかっていないようです。むかしから

人の暮らしになじんでいたアカトンボの減少は、本当にさびしいことです。

### 移り変わるトンボの種類

今里山クラブが作業をしている町有林付近は、自宅に近いこともあり、小川町に来た年から気に入っていて、鳥や昆虫を見たり写真撮影にたびたび歩いているところです。

団地の西側から赤芝沼に出て、町有林に沿って水田の奥まで往復してから高谷の集落入り口あたりまで歩いて戻ってくる。あるいは、興が乗ればそのまま先に行って、団地をぐるっと大回りするように歩いて戻ってくることもありました。

町有林東側の沢筋にあった水田は、今は里



ヨツボシトンボ



ハラビロトンボ(オス)

山クラブが借りている以外は休耕してしまっていますが、当時はまだ奥の方まで耕作されていました。町道からの入口付近では、キイトンボが見られましたが、時がたつにつれて環境が変わったためか、2、3年後には見られなくなりました。一度だけですがヨツボシトンボも見ることがあります。

また、町道から少し入ったところの農道脇にあった小さな湿地にはオオシオカラトンボを小さくしたようなハラビロトンボがたくさんいたのですが、これも草が茂りすぎたためか近年次第に少なくなって、昨年はどうも見るできませんでした。

一方、体験広場の奥にある沼(堂の入沼)は、はじめのころはトンボの姿がほとんど見られなかったのですが、最近ではコイの自然放流を行っている由の看板がつくなど、すっかり様子が変わりました。今はヒシなどの水草がよく茂り、トンボの種類も数も、ずいぶん多くなったようです。特に昨年はチョウトンボが非常に多く見られました。青光りのする黒い幅広い翅を持ち、チョウのようにゆっくり、ひらひらと飛ぶトンボです。8月末に行ったときには、このトンボが体験広場の上空や沼のまわりの林間に数十頭も乱舞していたのをはじめとして、1時間くらいに9種ものトンボを見ることができました。

チョウトンボは決して珍しいトンボではないのですが、幼虫の生息に適した環境は割合限られていて、平成12年に町が発行した『小川町の自然・動物編』には、町内のチョウトンボの発生地として、赤芝沼と高見の深田谷沼(四つ山の南側?)の2カ所が挙げられているだけです。深田谷沼はまだ場所の見当をつけただけで、近くに行ったことがないので、今どんな状況なのか知らないのですが、赤芝沼では近年はチョウトンボはまったく発生していないと思いますから、堂の入沼は貴重な生息地と言えそうです。



チョウトンボ(メス)

里山クラブとは直接関係はありませんが、できれば、沼を管理する水利組合の方々が、多くのトンボや水生昆虫も住むことができる環境を保持するような扱いをしていただけるといいと願っています。

## ■ 私とツリーハウスとの関わり

ことしの桜は、例年に比べずいぶん早い開花ですね。お隣の畑にはアーモンドの木にピンク色の花が咲いています。会長から、例年の会報の原稿依頼がありましたので、私事ですがツリーハウスビルダー講座の事など、お話しします。里山クラブ活動で体験広場に、ツリーハウスを作るお話があり、ご存知の通りツリーハウスではなく、展望台として(肩慣らしとして?)中腹に第一展望台、中山頂上に第二展望台が皆様の御協力のおかげで完成しました。

当初予定のツリーハウスは、自分も興味があったので調べている内に、ツリーハウスビルダー講座が開催する事をタイミング良く知り、どうやって高い木の上に安全に作るのか、知りたくなり講座を受講する事になりました。

講座は、座学半分、実技半分で2011年4月から同年11月までの8ヶ月間で終わったのですが、時間が足らずデッキ床までで講座が終了しました。



中山展望台完成



ツリークライミング講座

その後は完成まで継続自主作業となり冬場を休止した後、完成に向け、月1回片道4時間かけて、いまだに大磯に通ってます。ライフワークみたいになっています。

手がけたツリーハウスは地上7~8m高さに、船の形なので、デッキ下部のオーバーハング作業が多くまだまだかかりそうです。

## ■ ツリーハウスビルダースクール(THBS)の紹介

私が受講した大磯の"海の見える森"をフィールドとした小林崇氏主催のツリーハウス3期生養成講座の様子を、少し御紹介します。フィールドとなる"海の見える森"は、日本初の小児ホスピスの開設を目指す公益財団法人が運営します。



2段デッキ根太組み

この小児ホスピスは障害や難病を抱え、自宅で療養する子供と家族たちが数日間過ごすショートステイの施設です。

その森の中に病気や障害と闘う子どもたちの夢のシンボルとして2011年4月、総床面積日本一の約50畳のツリーハウスがプロのビルダーの手により完成しました。

同じフィールド内に、2011年4月から受講しながら3期生がつくるツリーハウスは4つ目となります。

受講生は23名で、南は大阪から北は北海道まで、年齢層は下は19才から上は63才まで。内婦国子女2名、女性が6名。

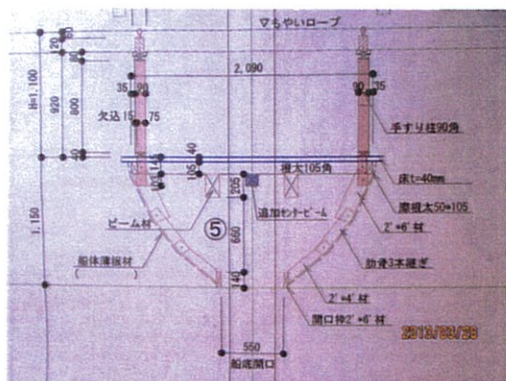
ツリーハウスビルダースクールの仲間達  
(講座完了時)



手すり運搬作業

### ■ ツリーハウス講座開始時期に原発事故が

講座の開始は2011年4月からの予定でした。開始前月に東北地方大震災が起きたため、講座自粛の検討がなされ危ぶまれましたが、多くの重篤な病と闘っている子供達が待ち望んでいる事もあり、予定通り開催されました。受講生の中には、震災の直接の被害は無かったものの、友人を数名亡くした仙台の人や、放射能汚染された福島県郡山の



製作図(断面)

以上の様に、ツリーハウスビルダー養成講座の開始時期から受講しながらも、同時に原発の事や、これからの生き方など考えさせられた時間でもありました。

原発から60km離れた郡山市内のホットスポットでは、東京と比べると数十倍の放射線量で、子供達は外で思い切り、震災前に上れていた子が、運動能力の低下で公園のジャングルジムにもすべり台ものぼれなくなっていたりする現実があります。

原発は一旦暴走すると、近寄れず制御不能になっている現実を突き付けられています。大量の使用済み燃料棒、除染で発生する汚染土の最終処分。



プレゼン模型

職業は、公認会計士(兼大学非常勤講師)、築地本願寺のお坊さん希少金属を集めるスクラップ会社の人、植木屋さん、建築設計士、環境調査士、ショットバーの経営者、大学生等々年齢・職業いろいろなメンバーが集まりました。

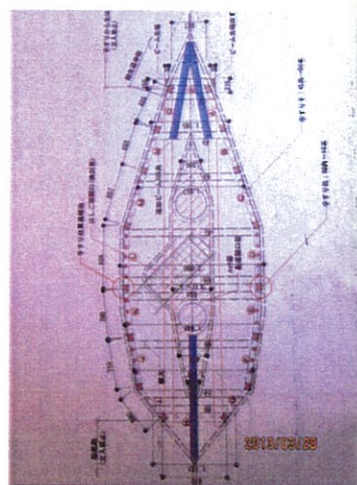
人生の節目で、自分探しを求めてきた人々が(ちなみに私は還暦の節目)毎月1回1泊2日で、全8回の座学と実技講習でした



受講生がいました。

仙台の受講生は震災直後から津波被害の住宅のへどろ掻きのボランティアへ、週末たびたび参加していました。

郡山市の受講生は、養成講座終了を前にして退職して、チェルノブイリ原発事故に見舞われた事故後26年経つ村を(本人いわく、福島の20数年後の姿を自分の目で確かめたいと)いって去った後、1年以上になりますがそのまま世界をひとり放浪中です。



製作図(平面)

冷却のための汚染水の処理等、未解決のままです。見えてこな復興への道筋。目に見えない放射能汚染による長期に亘る心身の被爆現代世代が今のピンチを克服して、将来世代にいか道筋(ビジョン)をつけていけるのでしょうか？

未来を担う子供達の命と安全を、今の大人たちは守れる事が出来るのでしょうか。ひとりひとりのこれまでの価値観や生活スタイルの見直しが問い直されていると思います。

### ■ ツリーハウスの窓から夢想する

最近読んだ本で、心の中にずっと入ってきた本。「禅」サブタイトル シンプル生活のすすめの一節です。

日本人の理想とする生活。最も美しいとする生活。それは隠遁生活であると言われる。→(これ禅的生活?)

鳥の声や水の音を聞きながら静かに書物を読む。酒をひとり飲みながら、杯に映った月を眺める。(何か会長のイメージが浮かびますね)

近くに動物がやってくれば一緒に遊ぶ。常に自由な心で、あるがままの姿で生きている。



プレゼンモックアップ

そういう生活を理想としてきたのです。→普段の日常生活では、思ってもなかなかできないので理想なのでしょうか？

山のなかにひとりで籠もると考えたのです。「山中の山居」禅僧はそれこそが理想の修業であると。

そこで千利休が「市中の山居」ということを言ったのです。あわただしい街なかにながら山居を実践してみたいかでしょうか。→さしあたって小川町は、街中と山中の中間地、里山では「里山の山居」でしょうか。ちなみに、我が里山クラブ会長の山居は離れの「夢窓庵」でしょうか。(笑)



小林崇氏著書

茶室と通じる様なツリーハウスの小さな空間は、「里山の山居」として自然をより感じる空間として最適ではないでしょうか。(実は学生時代茶室建築の実測でちょっと関わった思い出がありますが)

20年間ツリーハウスに係わってきた小林崇氏は著書の中で、茶室の「小ささの中にある美学」は、ツリーハウスの世界観にもあると感じる。

reeHouse Builder School



最終案スケッチ



大磯ツリークライミング作業の様子

と言ってます(ツリーハウスをつくる愉しみ。小林崇著書より) その日本のツリーハウスクリエーターの第一人者小林崇氏の最近の作品の中にも茶室をイメージした作品があります。その作品は那須二期倶楽部にあり、昨年見聞してきましたが、非日常的な空間で自然と対話する”茶室”的のようなツリーハウス。それはきれいな小川のせせらぎのたもとにある、くるみの

木の上であり、まさに入り口は茶室のにじり口、中に入ると眼の前の崖の悠久の地層をイメージした土壁。まさに小さな宇宙空間でした。

### ■ 結び

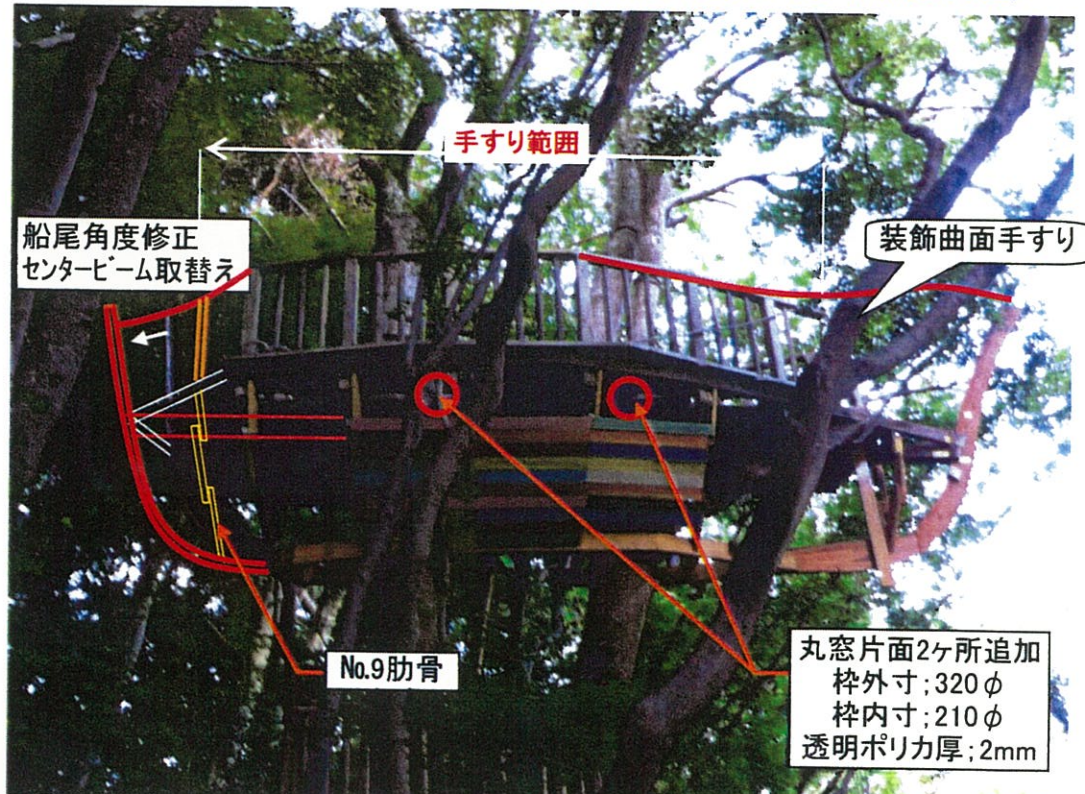
岐路に立つ現在。これからの道しるべを夢想する空間。振りかえって町有林の体験の森ゾーンには、子供や若者が里山の自然を利用し、途中に遊び心のある遊具などを置いてつくったコースで行う野外運動のフィールドに利用したり、その中には、「里山の山居」としてのツリーハウス。日常生活からたまに離れて自然のなかで心の自由を取り戻し、新しい発想をめぐらすことの出来そうなわくわくする空間を夢想しているところです。



夢窓庵(夢を開く窓)



船体貼り作業の様子(ぶら下がっているのは女子大生)



小林素氏への相談資料



### ■ 付記

脚注1) 公益財団法人”海に見える森”とは

生まれつき重い障害や治らない病気で生きられる時間が限られた子どもとその家族のための休息施設。緩和ケア(子どもの身体症状の緩和、子ども、家族の心理社会的問題の解決、相談支援、スピリチュアルケア) 死別後のケアする施設。

シェア) 公益財団法人海のみえる森 サポーター募集資料より抜粋

医療の発達とともに、医学的な処置を受けながら生きる子どもたちが増え続けています。彼らは長い間病院の中で過ごしており、心と体を育む大切な時期にも関わらず、十分に家族と過ごすこともできません。(中略)限られた環境で長期間にわたる治療を続けており、子ども達がその中で生きる喜びや楽しさを感じることは難しく、実際多くの子どもたちが、「自分の病気のために家族を苦しめている」と自身の存在を否定していることは、治癒後の生活にも大きな影響を与えています。

私たちは、これらの患者や家族を支える「子どものホスピス」を国内につくろうと活動を行っています。小児ガンや筋ジストロフィなどの重篤な病気や障害を持つ子どもを、医療者のいる施設で一時的に預かり家族も子どもたちも笑顔になれる時間を作る。そんな場所を私たちと一緒に作りませんか？



## お知らせで見る活動の記録



里山祭りの新人夫婦の餅つき



焚火をたいて (11月11日)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 5月のお知らせ

町有林の過去・現在・未来を展望するモントトと山鳥のベンチ



「出会・共鳴り・人となり」の奥深い篠の音が、新緑に輝く第一展望台から4月30日午後1時から響きわたった。十周年にふさわしく、篠の音は里山を潤す恵みの雨、雑木林を吹きぬける風、鳥のさえずり、チゴユリの花となり、心が浄化される音色であった。会員によるオカリナ・尺八・民謡・フォーク、一品持ちよりの料理も味わい深く、パイセンの樽はたちまち飲みほされた。里山の「過去・現在・未来」を展望するモントトの展望台と山鳥のベンチ。森づくりの夢は次の十年に向かってすでに歩み始めている

#### 5月の例会

**期日:** 5月20日(日) 雨天の時は 5月26日(土)  
**集合:** 町有林入口 9:00  
**内容:** 散策路の整備と自然観察

\* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 4月のお知らせ

総会で演奏予定の大野利可さんの篠笛



3月18日、山鳥のベンチとモントトの休息所を造るための資材の運び上げ、25日は体験広場でナメコ、シイタケの駒打ちと展望台の基礎を仕上げました。現在床張りも終了。

#### 4月の例会と総会

**例会** 山鳥のベンチと展望台仕上げ(手すり等)  
**期日:** 4月15日(日) 雨天の時 22日(日)  
**集合:** 町有林入口 10:00

**総会** **期日:** 4月30日(休) 雨天の時 5月6日(日)  
**集合:** 第一展望台 10:00  
**内容:** 総会・懇親会・コンサート

10周年を記念して大野利可さんの「篠の音は出会・共鳴り・人となり」の篠笛を楽しみたいと思います。

- \* 一品持ち寄り、弁当持参、雑木林11号配布、会費納入もお願いします
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 6月のお知らせ

前山の頂上の赤松林区を整備してマツタケ山へ



5月20日は、雑木林を吹きぬける風と光を全身で浴びながら散策路の整備をしました。作業後モントトの休憩所で、これからの10年、「みんなでつくる森」をテーマにして整備計画を語り合いました。

憩いの森、ゆったりとした散策路、豊かな林床と植生。特に赤松林区を整備してマツタケ山への夢などが新しい会員と共に話し合われました。

#### 6月の予定

##### 特別企画

**期日:** 6月16日(土) 雨天決行  
**集合:** 町有林に隣接する田んぼ 9:00  
**内容:** 田植え(今年はどんな絵柄になるか)

##### 例会

**期日:** 6月17日(日) 雨天の時は 24日(日)  
**集合:** 町有林入口 9:00  
**内容:** 赤松林区の整備(枯木整理、常緑樹除伐)

- \* 剪定ばさみ、ノコギリ、チェーンソーなどをお持ちの方は御持参ください。
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 7月のお知らせ

作業後の赤松林区でほっとひと息



6月16日、雨の中の田植。今年の絵柄「小川」を黒米で描きました。17日は、赤松林区を整備しマツタケ山への第一歩が始まりました。

当日は雨もあがりヒサカキ、コナラ、ウルシ等で覆われていた前山の南斜面約100㎡を整備した後の清爽感は、感動的でした。晴れて光の射し込んできた赤松林区の林床はマツタケ菌等の復活や松林の景観をつくりだす活動で、5年後の夢がふくらみました。

#### 7月の例会

**期日:** 7月15日(日) 雨天の時は 16日(海の日)  
**集合:** 飯田の楮畑 9:00  
**内容:** 楮の間引き、草、クズ等の除伐

- \* 当日は暑さ対策を十分にし、剪定鉋等を御持参ください。
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 10月のお知らせ



彼岸と共に秋の訪れ、早朝コオロギの鳴き声がひとときわ耳に響きます。

9月の例会は体験広場の整備をしました。炭焼き小屋の屋根を覆っていた柳の枝を切り落とし、土手の草刈り、木の枝を集めて燃やす作業で皆汗を流しました。

#### 10月の例会

##### 特別企画: 稲の刈り取り

10月13日(土) 午後1:00 町有林集合

**例会** **期日:** 10月21日(日) 雨の時は 28日(日)  
**集合:** 町有林入口 10:00  
**内容:** 赤松林区(前山)の整備

- \* 里山祭りは11月11日(日)を予定しています。
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 9月のお知らせ

11年目を迎えた里地山山体験広場



9月を迎えていますが酷暑。いかがお過ごしですか。8月も終わりとなりし蟬の声...

7月の例会は楮畑の手入れを行いました。参加人数は少なかったですが楮の間引、草刈り等午前中で終了。荒井さんが差し入れてくれた冷たい紅茶で皆喉をうるおしました。9月の例会は広場を整備し里山祭りに備えたいと思います。

#### 9月の例会

**期日:** 9月16日(日) 雨天の時は 17日(敬老の日)  
**集合:** 体験広場 9:00  
**内容:** 広場の整備

- \* 樹の枝の剪定、ベンチ整備、竹炭用の煙突の設置、草刈り
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



### 小川町里山クラブ"you-you" 2012年 11月のお知らせ

真唯ちゃんも大活躍 クラブで育てた田んぼの稲刈り



10月13日は小川と描いた田んぼの稲刈りをしました。里山祭りの餅が楽しみです。21日は赤松林区の整備をしました。マツタケ菌等の復活や松林の景観をつくりだす夢のある活動のはじまりです。

#### 11月の例会

**里山祭り** **期日:** 11月11日(日) 準備会 10日(土)  
**集合:** 体験広場 10時  
**内容:** キノコ汁、餅つき、焼き芋

懇親会、コンサート等  
準備会は竹コップ ハシ 竹炭用の材料づくり  
\* 一品もちよるとなると楽しくなります。

**例会** **期日:** 11月25日(日) 雨の時は 12月2日  
**集合:** 町有林入口 10時  
**内容:** キノコの原木の準備

- \* チェーンソー等ある方は御持参ください。
- \* 現地連絡先: 090-2461-9189 (馬場)



小川町里山クラブ"you-you"  
2012年 12月のお知らせ

焚火とバイセンの梅を囲んでみんなごきげん。



11月11日紅葉の始まった体験広場での里山祭り。餅つきは新人夫婦数組。季節の味はナメコ汁、焼き芋、数匹のイワナ。癒しの音色は民謡、尺八、フォーク。焚火を囲んでの懇親会は食と音楽の豪華な宴となりました。特に福島飯館村出身で小川町に避難してきた御夫妻の言葉には原発の怖さと怒りを改めて実感しました。

歳月を忘れる如く生きてきて

あの日あのまま山河かわらず

11月25日は里山の恵みキノコの本木の切り出しをしました。

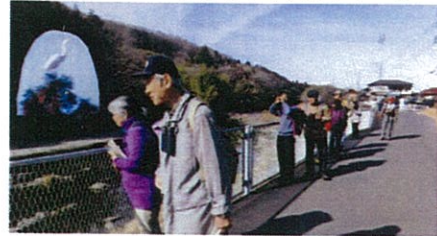
### 12月の例会

期日:12月16日(日) 雨天の時は中止  
場所:町有林入口 10時  
内容:前山(赤松林区)の整備  
\* チェーンソー等ある方は御持参ください。  
現地連絡先:090-2461-9189 (馬場)



川町里山クラブ"you-you"  
2013年 2月のお知らせ

カイツブリの見事な水中遊泳にみいる



1月6日、新春冬鳥観察会が仙元山山麓で行われました。当日はノスリが天高く舞う快晴。槻川では杉の木々の天辺に優雅な姿をみせる白鷺、川面にはカワウが数匹飛翔し、水中ではカイツブリの見事な水中遊泳。ハクセキレイ、セグロセキレイ、鴨などが目撃されました。

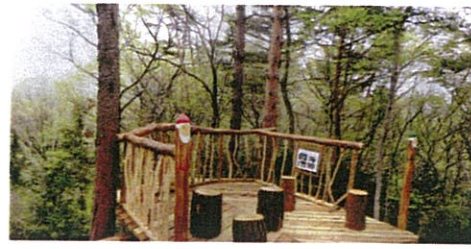
1月13日、昨年の夏の日照りで成長の十分でない楮刈り。この楮を使ったフレビンの和紙の作品はワビスビにも通じるもので、ボランティアの人たちの支えもその中にこめられているとのことでした。トン汁、甘酒に喉をうるおし解散。

### 2月の例会

期日:2月17日(日) 雨の時は24日(日)  
場所:町有林入口 10時  
内容:キノコのはだ木用の玉切り、運搬  
\* チェーンソー等ある方は御持参ください。  
現地連絡先:090-2461-9189 (馬場)



新年あけまして  
おめでとうございます



森の小人モントトは2013年の元旦の夜明けを静かに迎えました。松に宿る初春の息吹。山鳥のベンチからは笠山、官ノ倉、小川町の過去 現在 未来 も見えます。

今年の整備計画は赤松林区の整備と木琴テーブルの設置です。里山の雑木林には芽吹き鼓動、冬鳥もさえずり野兎もはねています。

2013年元旦 小川町里山クラブ youyou 会長 佐藤章

### 1月の予定

例会 新春里山探訪、冬鳥観察会

期日:1月6日(日) (雨天中止)

内容:仙元山ウォーキングと冬鳥観察

集合:伝統工芸会館駐車場 10:00

\* お弁当、あれば双眼鏡

特別企画 楮の刈り取り

期日:1月13日(日)雨天時は1月14日(休)

集合:東上線脇の楮畑 10:00

\*太枝切り鉋、剪定鉋等がありましたら御持参ください  
現地連絡先:090-2461-9189 (馬場)



小川町里山クラブ"you-you"  
2013年 3月のお知らせ

玉切りした原木を軽トラに積みこむ



2月17日、キノコの本木の玉切りと運搬を「循環の森」で実施しました。すでに伐採してあったナラ、サクラをチェーンソーの音も高く玉切りにし、声をかけ合い山道まで投げ下ろす作業はストレスの解消にもなり、皆楽しそうでした。また、里山の未来を描いて整備した赤松林区には女性陣が松苗を十数本植樹しました。

寒気が北日本を直撃していますが、雨水がぬるみ草木が芽ぶく春はもうきています。

### 3月の例会

期日:3月17日(日) 雨の時は24日(日)  
場所:体験広場 10:00  
内容:キノコの駒打ち  
\* 電気ドリル等ある方は御持参ください。  
現地連絡先:090-2461-9189 (馬場)

## 2012年里山田米づくり メモ

2013. 4月 輪湖記

### 1. 2012年米づくりの特記事項

#### ① 水枯れによる昨年比25%の減収

無施肥などの手抜きもあるが、里山の養分を運んでくれる天水が枯れたことで、水・栄養不足となり、稲の分ケツ不足=穂数不足=減収となった。

#### ② 田文字は「小川」で、まずまずの出来

上記穂数不足で隙間が目立ち、やや見劣りはしたが判読は可能となった。

#### ③ ホタルは出たが、ウスバキトンボの羽化は減少。

7月初旬ホタルは出たが、7月後半からの少雨で8月からの水枯れにより、昨年集中した8月末のウスバキトンボの羽化が減少した。

### 2. 米づくりの記録

4月; 苗用土づくり、温湯消毒、川浸し、苗代づくり、27日モミ蒔き。

5月; 田づくり(土手草刈り、配水溝整備、田耕、水張、代掻き) 16日放射能測定。

6月; 16日田植え(8名)「小川」文字植え、田草とり。

7月; ホタル・ウスバキトンボ飛ぶ、後半水細くなる。分ケツ少ない。草刈。

8月; 水枯れ、後半になり田ひび割れる。16日出穂始まる。

9月; 3日イノシシ電柵を張る。25~27日休耕地の草刈。

10月; 13日稲刈り(13名)、21日脱穀(4名) 25日粳摺り・精米(モチ12k)。

11月; 11日里山まつりにて餅つき(3k4白) 草餅が好評。

浪江町の夫妻にも餅つきを楽しんで戴きさやかな連帯もできた。

### 3. 荒れてゆく里山田(谷津田)に思う:一戦後復興に汗した先人の文化遺産一

多くの谷津田は、戦後の食糧確保と帰国者の就労対策を兼ねて農耕地の復興や山裾等の開墾が奨励された時代の先人の汗の結晶である。このひたむきな志とパワーが、農地解放や国による食糧管理等と相まって急速な食糧増産を達成し、戦後の復興につながった。

荒れ行く谷津田は、私たちに何を問いかけ・何を訴えているのだろうか?

### 4. 農地の放射能汚染と農産物:一はかり知れない「土」のちから一

原発事故に伴う農地の放射能汚染は、食の安全(=人の健康)にとって重大な問題である。福島(東和町)では、「農業の復興なくして地域の復興はない」として、土壌汚染低減と食(農産物)の安全対策を構築する取組が進められている。

2012年計測の土壌放射能の米(稲)への移行係数は、(土壌・水まわり・カリ濃度等による差異はあるが)概括して、稲わら(0, 0.5)、もみ殻(0, 0.3)、玄米(0, 0.1)、白米(0, 0.03)、炊飯(0, 0.015)前後といわれる。今後の復興に向けた取り組みに希望が湧くデータである。「放射能に克つ農の営み」より 以上。

## 2012年度 里山クラブ “You-You” 活動報告

(2012年4月～2013年3月)

里山クラブ事務局

4月15日(日)	例会	山鳥のベンチと第二展望台仕上げ	町有林
30日(休)	例会	2012年度総会 懇親会、コンサート	第一展望台
5月20日(日)	例会	散策路の整備と自然観察	町有林
6月16日(土)	特企	田植え	町有林わきの谷津田
17日(日)	例会	赤松林区(前山)の整備	町有林
7月15日(日)	例会	楮の間引き、草、クズ等の除伐	飯田楮畑
9月16日(日)	例会	飯田里山体験広場の整備	飯田里山体験広場
10月13日(土)	特企	稲の刈り取り	町有林わきの谷津田
21日(日)	例会	赤松林区(前山)の整備	町有林
11月10日(土)	特企	里山祭り準備	飯田里山体験広場
11日(日)	例会	里山祭り 懇親会、餅つき、コンサート	飯田里山体験広場
25日(日)	例会	キノコのほだ木用木の伐採	町有林
12月16日(日)	例会	赤松林区(前山)の整備	町有林
1月6日(日)	例会	仙元山ウォーキングと冬鳥観察	仙元山
13日(日)	特企	楮の刈り取り	飯田楮畑
2月17日(日)	例会	キノコのほだ木用の玉切りと運び出し	町有林
3月17日(日)	例会	キノコの駒打ち	飯田里山体験広場

11月; 11日里山まつり



里山祭りの新人夫婦の餅つき



浪江町の夫妻にも餅つきを楽しんで戴きささやかな連帯もできた。



クラブで育てた田んぼの稲刈り 里山文化の継承 真唯ちゃんも大活躍



(和紙の原料となる楮の刈り取り作業)



小川町里山クラブ 'You-You'

雑木林編集部連絡先：〒355-0333 小川町飯田1-6-5

佐藤 章 (Tel 04 93-72-2070)